令和3年度　学校自己評価中間報告書

石川県立七尾特別支援学校輪島分校

重点目標			具体的取り組み	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	中間結果	分析（成果と課題）
1	授業実践力の向上	①	教科の単元計画ファイル作成を行う。教員は年間指導計画、指導要領のポイントがわかる資料、児童生徒のアセスメントをあらかじめ綴じてあるファイルを用意し、単元計画の際にはそれを参考にしながら計画を立て、授業実践を行い、結果を記録し、次回の授業につなげる。	学習支援課	【努力指標】（教員） ７月と１２月にアンケートを取り、単元計画ファイルを作成して授業改善に取り組んでいる教員の割合を測る。 ４：ファイルを作成し、授業改善ができている。 ３：ファイルを作成し、ある程度授業改善ができている。 ２：ファイルを作成したが授業改善ができていない。 １：ファイルを作成していない。	アンケート結果が A：４と３合わせて８０％以上 B：４と３合わせて７０％以上 C：４と３合わせて６０％以上 D：４と３合わせて６０％未満 【達成目標Ｂ以上】	4:　８％ 3:３０％ 2:５３％ 1:　８％ 4と３合わせて３８％であった。 【D：３８％】	ファイルを作成することは、ほぼできた。（アンケート後にファイルは全員作成した）活用はまだまだである。 次は活用の方法を周知していくことが求められる。一つの単元が終わった後に良かったこと、反省点、改善点を書き込み、次の単元に反映させる取り組みを直接伝えたり、研究だよりで紹介したりして進めていきたい。
		②	ICT研修を行い、教員のICTスキルを向上させ、日々の授業でGIGAスクールで整備されたiPad端末を使用した実践を行う。	学習支援課	【努力指数】（教員） ４月、７月、１２月に教員のＩＣＴ活用指導力チェックリストで教員のICTスキルが向上しているか測る。	チェックリストの教員の合計得点が４月に比べて１２月段階で A:１２０％以上 B:１１５％以上 C:１１０％以上 D:１１０％未満 【達成目標Ｂ以上】	チェックリストの合計得点の平均値が 4月　28.8 点 8月　29.13点 １１１％の上昇率であった。 【C:１１１％】	GIGAスクールの動画を見る研修、OJTを利用したGoogleツールの研修、iPadのセットアップ研修を行い少しずつスキルが上昇している。 今後は、教員個別に対応し、伸ばしたいスキルにあった研修やOJTを行うことでさらなるスキルアップを進めたい。
2	組織的・系統的なキャリア教育	①	お手伝い・家事マスターチャレンジを企画する。教員は児童生徒が意欲を高められるようにキャリア教育の視点を持って指導する。家庭へは進路だよりを通してお手伝い・家事分担の種類や意義を周知する。	学習支援課	【満足度指標】（保護者） ７月と１２月にアンケートを取り、児童生徒に家庭での役割があると感じていると答えた保護者の割合を測る。 ４：大変あると感じる ３：ある程度あると感じる ２：あまり感じない １：全く感じない	アンケート結果が A：４と３合わせて８０％以上 B：４と３合わせて７０％以上 C：４と３合わせて６０％以上 D：４と３合わせて６０％未満 【達成目標Ｂ以上】	「大変あると感じている」５名「ある程度感じている」９名「あまり感じない」３名「全く感じない」２名という結果だった。「大変あると感じている」＋「ある程度感じている」が全体の約７３％であった。 【Ｂ：約７３％】	お手伝い・家事マスターチャレンジを企画したことで、大半の保護者が児童生徒に家庭での役割があると感じることができている。 今後は、さらに児童生徒への家庭での役割を担う事ができるように、お手伝い・家事マスターチャレンジの工夫や進路だより等で情報発信をしていく必要がある。
3	安心・安全な学校作り	①	学校安全としての「生活安全」「交通安全」「災害安全」の３領域について、自他の生命尊重を基盤として、自ら安全に行動し、社会の安全に貢献できる資質・能力を育めるよう取り組む。	生活支援課	【努力指標】（教員） 「安全に関する指導の内容例」を基に、学部毎で取扱う項目を検討し、アンケートにて取扱った割合を評価する。	学部毎に取扱った割合が、 Ａ：８０％以上 Ｂ：７０％以上 Ｃ：６０％以上 Ｄ：６０％未満 【達成目標Ｂ以上】	学部毎に取扱った割合が、 小学部で６２.５％【C】 中学部で６１.７％【C】 高等部で２９.７％【D】 （９月末）	各学部の児童生徒の実態に合わせた取り組み方を検討することで、学校安全に関する指導を継続的に行うことができる。 今後も様々な学習活動の場面において取り組んでいくことが必要である。
4	業務の効率化	①	書類や電子データの整理、優先順位を決めて業務に取り組むこと、今年度の反省を生かし来年度の書類を準備しておくことなど効率的に業務を行う工夫をして業務に取り組む。	全教職員	【努力指標】（教員） 8月と１月にアンケートをとる。 ４：工夫をして業務に取り組むことができ大幅に効果があった。 ３：工夫をして業務に取り組むことができやや効果があった。 ２：工夫をして業務に取り組むことができたが効果がなかった。 １：工夫をして業務に取り組むことができなかった。	アンケート結果で「工夫をして業務に取り組むことができ効果があった。」(4+3)と答えた教員の割合が A：８０％以上 B：７０％以上 C：６０％以上 D：６０％未満 【達成目標Ｂ以上】	４：　0人 ３：14人 ２：　2人 １：　1人 17人中14人 【A：８２％】	今年度は、教員数の減少による課の再編などもあり、当初は運営が難しい部分もあった。しかし、業務を行っていく中で円滑に業務が進められるよう工夫したということである。 アンケートに関しては、 各自が工夫して業務に取り組むことができたという回答がほとんどであった。早めの締め切りの設定、夏季休業中の利用等で効果が見られた。後期も引き続き工夫して業務に取り組んでいきたい。